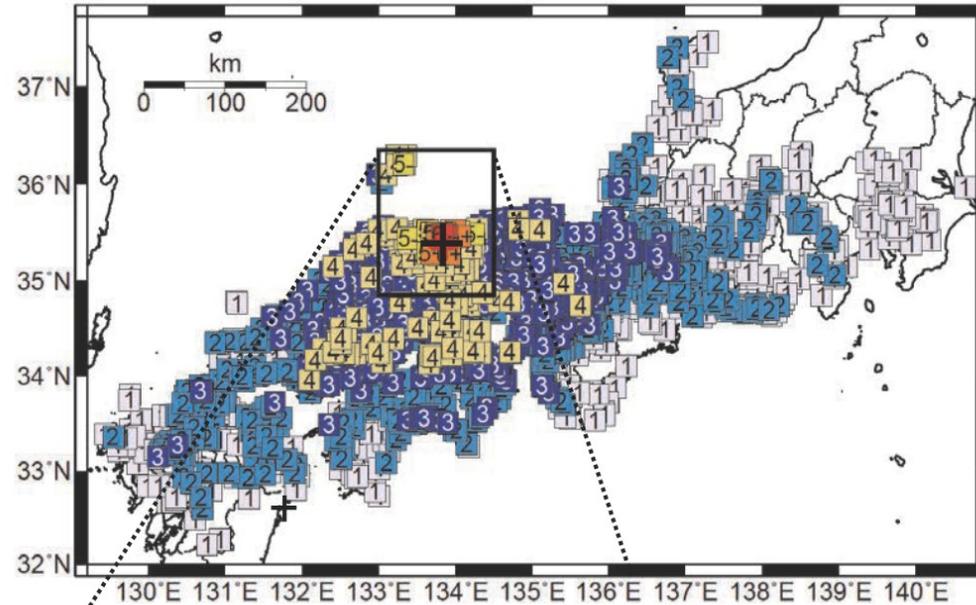


鳥取県中部の地震の概要

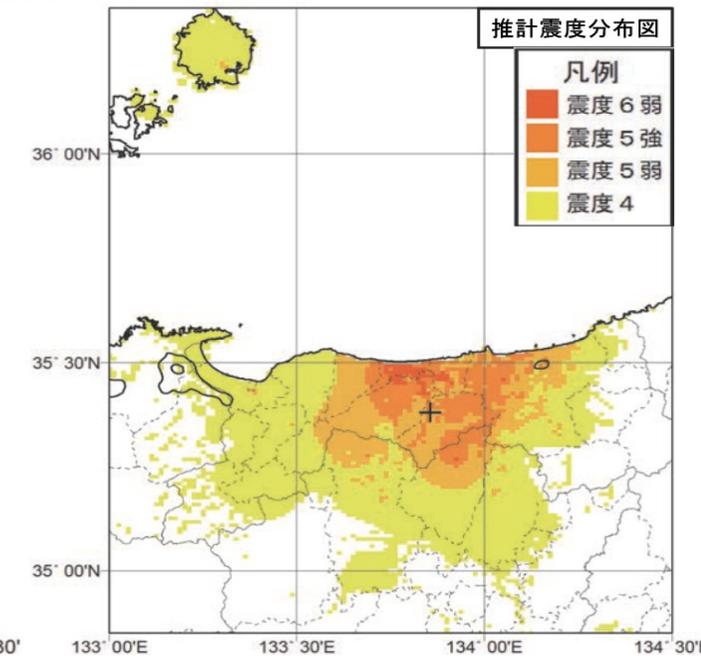
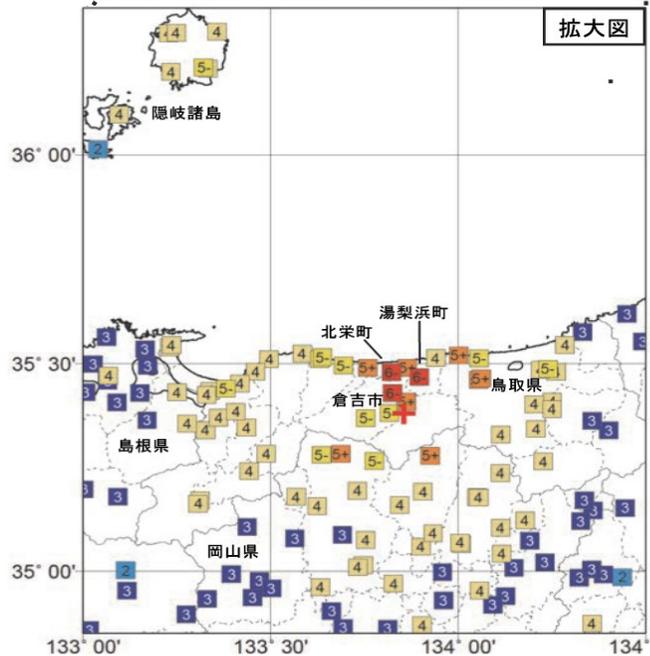
- 2016年10月21日14時07分に、鳥取県中部の深さ11kmでM6.6の地震が発生
- 鳥取県倉吉市、湯梨浜町、北栄町で震度6弱、鳥取県鳥取市、三朝町、岡山県真庭市、鏡野町で震度5強を観測、ほか中国地方を中心に、関東地方から九州地方にかけて震度5弱～1を観測。
- 10月31日までにM4.0以上の地震が11回、最大震度4以上の地震が9回発生。
- 地震の活動域は北北西－南南東方向に延びる長さ約10kmの領域。
- 発震機構は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型。
- この地震により、負傷者32人、住家全壊18棟、住家半壊312棟、一部損壊15,095棟などの被害が生じた。重傷者は自身の転倒や倒れた物が当たったことによる骨折、熱湯による火傷が主
- 気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から12.1秒後の14時07分36.4秒に緊急地震速報（警報）を発表した。
- 気象庁では、気象庁機動調査班（JMA-MOT）等を派遣し、この地震により震度6弱～5強を観測した震度観測点及びその周辺において、震度観測点の観測環境及び地震動による被害状況について現地調査を実施した。現地調査の結果、震度5強以上を観測した地点の観測環境に異常は認められなかった。

鳥取県中部の地震（2016年10月21日）震度分布図



出典：
2016年10月
地震・火山月報(防災編)
気象庁 p67

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/gaikyo/mont_hly/201610/201610index.html



震度 6 弱
倉吉市葵町
湯梨浜町龍島
北栄町土下

鳥取県中部の地震 震央分布

2016年10月21日～10月31日
深さ 0～20 km M0.5以上

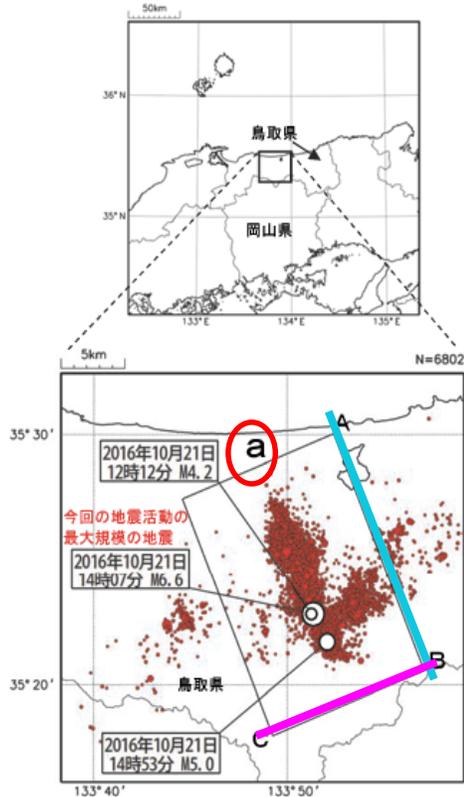


図 2-1 震央分布図
(2016年10月21日～2016年10月31日
深さ0～20km、M0.5以上)

表 2-1 領域 a 内の最大震度 4 以上の地震の表

番号	発震時	震央地名	深さ	M	最大震度
1	10月21日 12時12分	鳥取県中部	10	4.2	4
2	10月21日 14時07分	鳥取県中部	11	6.6	6弱
3	10月21日 14時08分	鳥取県中部	7	3.7	4
4	10月21日 14時30分	鳥取県中部	10	4.4	4
5	10月21日 14時33分	鳥取県中部	5	4.4	4
6	10月21日 14時46分	鳥取県中部	9	3.8	4
7	10月21日 14時53分	鳥取県中部	9	5.0	4
8	10月21日 16時52分	鳥取県中部	6	4.1	4
9	10月21日 17時59分	鳥取県中部	9	4.3	4
10	10月29日 13時43分	鳥取県中部	7	4.5	4

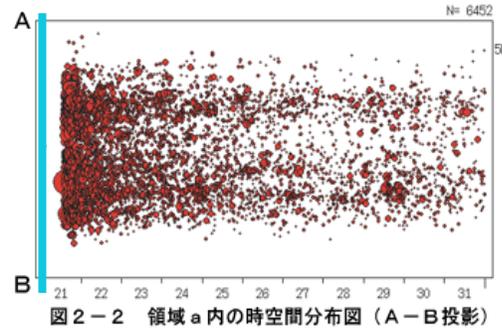


図 2-2 領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)

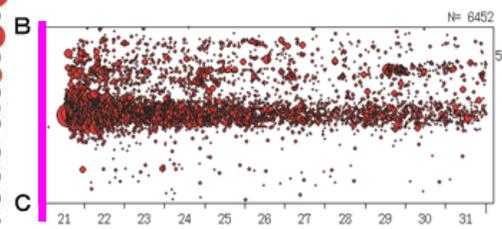


図 2-3 領域 a 内の時空間分布図 (B-C 投影)

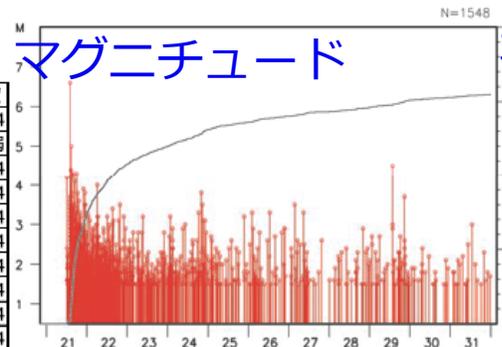


図 2-4 領域 a 内の M-T 図
及び回数積算図 (M ≥ 1.5)

四角形領域 **a** 内の
地震活動
縦軸 地図の A-B
横軸 時間の経過

四角形領域 **a** 内の
地震活動
縦軸 地図の B-C
横軸 時間の経過

縦軸右
地震回数

四角形領域 **a** 内
M 1.5 ≤ の地震回数
積算図

横軸 時間の経過

出典: 2016年10月地震・火山月報(防災編)

鳥取県中部の地震 被害の状況

都道府県名	人的被害				住家被害					非住家被害	
	死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共建物	その他
			重傷	軽傷							
人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	
大阪府					1						
兵庫県					3						
鳥取県			8	17	18	312	15,078				316
岡山県			1	2			17				1
合計			9	23	18	312	15,095				317

被害の状況 (平成30年3月22日現在:総務省消防庁のまとめ)



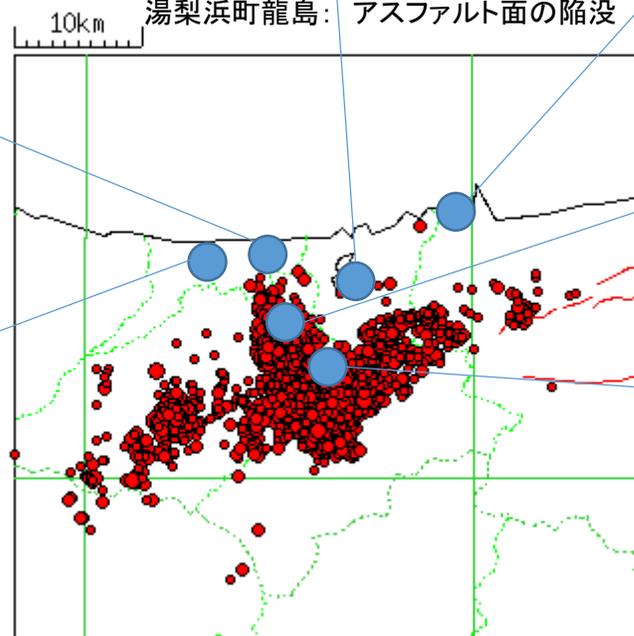
北栄町土下: 建物基礎部分の亀裂



北栄町由良宿: 商会議所の窓ガラス割れ



湯梨浜町龍島: アスファルト面の陥没



鳥取市青谷町青谷: 住家の瓦落下、壁のひび

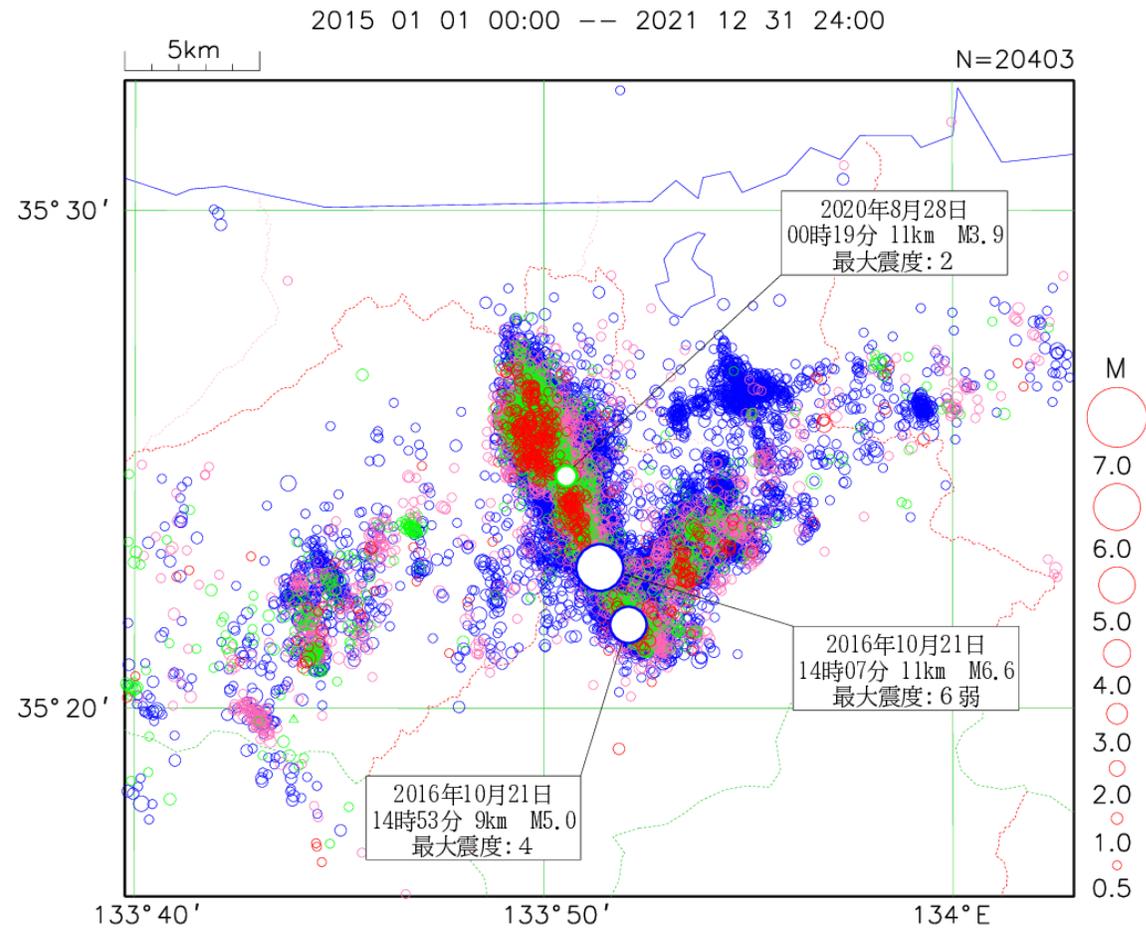


倉吉市葵町: 市役所のコンクリート製手すりの落下



三朝町大瀬: 図書館の窓ガラス割れ(ブルーシート部分)

鳥取県中部の地震 その後の活動



- ・ 2015年1月1日～2021年12月31日、M0.5以上、深さ0～60 kmの範囲の震央分布図（上）と規模別地震活動経過+回数積算図（右）
- ・ 期間中の地震活動を2015年から2年ごとに青色、桃色、緑色、赤色で表示
- ・ 本震とその直後及び2017年以降でMが最大の地震にコメントを付加

- ・ 本震後の最大の活動は、2016年10月21日14時53分の深さ9km、M5.0、最大震度4の地震
- ・ 2017年以降で最大の活動は、2020年8月28日00時19分の深さ11km、M3.9、最大震度2の地震
- ・ 地震の発生回数は少しずつ減少しているが、2015年以前と比べて活動レベルは依然高く2021年も最大震度1の地震が5回発生している
- ・ 例えば、M0.5以上の地震の発生回数は、2014年以前は年間100回未満だが、2021年は590回で依然多い

